

語

ら

い

座

レポート

第8回 語らい座

「美しき人生を生きる」

ゲスト

美容家

田中 宥久子 氏

平成22年6月4日（金）

株式会社大央 大央ホール



不動産会社大央の情報発信スペース「大央ホール」で開催された「語らい座」の第8回目。座長である建築家松岡恭子氏が今回迎えたゲストは、美の伝道師、田中宥久子さん。独自の美容理論「田中メソッド」は常識を覆す新理論で、美容業界に衝撃を与え続けている。映画やテレビなどの映像の世界をはじめ、舞台や広告、CMにおいても幅広く活躍され、美粧に対する情熱と、仕事に対する生き方は高く評価されている。監督、女優、俳優からの支持も多い。

オーディエンスがすべて女性というのは語らい座始まって以来初めて。座長松岡恭子が今回の会への思いを話し出した。

松岡氏「田中さんをご紹介するにあたって、造顔マッサージも勿論ですが、仕事人としてのスタンスや、魅力的な生き方を是非皆様にお伝えしたく、ご多忙な中、やっと本日お迎えすることができました。顔に元気をもらうだけでなく、田中さんから発せられる気や、メッセージを通して、心に元気をもらうことができますと思います。そのあたりを感じ取っていただけたらいいなと思います。」

美やデザインは、視覚化される物だけが全てではない。その奥の見えない部分であったり、関わり方であったりを、深く感じ取ることが大切である。今日は仕事人田中宥久子を通して何を感じるのか、胸躍る始まりとなった。

■ 技術そして教育

「美容師は嫌いだった」と語り始めた田中氏。創造すること、デザインすることに興味があったと。また、美容に関わっていた厳しい田中氏の祖母は、社会の中で女性に手に職を就けさせるために貢献されてきた1人だ。とにかく厳しい人だったと田中氏は語る。

田中氏「祖母の時代の厳しい教育方針が私にも染み付いていて、スタッフにはすごく厳しくしていますね。技術は人格が出来ていないと身につかないと思っていて、言葉使いから、マナーまでも厳しく教えるようにしています。」

松岡氏「最近、上海にも店舗をオープンされ、その準備期間で、日に日にスタッフが成長していくのを見てとても刺激になるとおっしゃっていましたね。」

田中氏「中国の方は、日本で2週間かかる研修を5日でマスターします。仕事に対する思いや意気込みが、自分の若い時代とよく似ているように思いましたね。」

松岡氏「帰国したばかりの田中さんは、中国の方々から熱意やエネルギーを吸い取ったかのように元気に満ち溢れ、さらにエネルギーを感じました。（笑）」

田中氏「元気になるのって、休暇を頂いて体を休めるとかだけではないと思います。ちょっとした逆境の中に身を置く方が、色々なことが見えたり、自分の力にプラスになったりするんですよ。これは今も昔も私にとっては変わりません。」

■ 映画の仕事を通して

美容の資格を取得後、長く映画の仕事に携わる。トレードマークとなった帽子や、モノトーン調のスタイルも映画での仕事がきっかけであった。

田中氏「撮影現場の話ですが、撮影中は役者さんのメイクの手直しが済むとすぐにカメラが回り始めることがあります。そんなときは自分がカメラに映らないように、その場でしゃがみこむのです。そのとき色物の服を着ていると反射して写り込んでしまうので、映像には良くないのです。黒い服だと光を吸収してくれるので影響しません。白いシャツに関しては、鏡に向かって役者さんの髪の手上がりをチェックするときに便利です。背景に白があると、黒い髪の手上がりを細かく見ることができます。そういう現場での対応から、白とか黒い服を着るようにしています。」

松岡氏「プロに徹するこれらのディテールが結果的に、田中さんのスタイルを作っているのですね。」

田中氏「浜辺のシーンはもっと大変ですよ。手直しに入ると砂浜に足跡が残りますものね。だから足跡が残らないような歩き方の練習をしましたよ。2ヶ月かかりましたが。（笑）」

撮影が始まれば、おなかになる音もダメ、服がこすれる音もダメだから動けない、傘も雨の音を拾うのでダメ、そういった緊張感が続くのだと田中氏は語る。平均睡眠時間は2時間程度、それが数ヶ月続くそう。

松岡氏「田中さんはこういう大変なお話を結構突き放してお話される。自分のつらい苦しい状況を客観的に見ていることの証ですが、こういう見方ができるからこそ、スタッフの教育や指導ができるのだと思いますね。」



対談中の田中氏と松岡氏

■化粧品開発を通して

田中氏の化粧品開発を通して、大きな二つの構造が見えると松岡氏は語る。一つは、始めから最後まで全てを自分でみるという徹底したプロフェッショナルリズム、もう一つは、日本文化を楽しむ気持ちだそうだ。

田中氏「色を作るときは一つのテーマを決めるのです。『日本の空のような色』とか。アトリエには何百色という色がありますが、そのテーマに合う色をただひたすらに作っていきます。日本人の好む色は少しトーンを落とした色合いなのですが、そのまま日本人の真っ白ではない顔にのせるには難しい。肌の色を考えながら調整を入れて作り上げていきます。もともと日本文化には五彩という伝統色があるのです。着物、日本画、陶芸など、それぞれにそれらの色が活かされています。そこから多くを学びました。人にも会いました。そして出来上がった、赤、群青、黄、緑、紫。ほんとに苦しかったけど、楽しかったですね。」

松岡氏「昨今プロジェクトは作業毎に細分化されてきているのが一般的です。割り当てられた仕事をこなす、そういう社会にありながら今のお話のように、テーマを作り、調合、色の命名、そして広報まで全てご自分で決めて進めて行くスタンスに、真のプロフェッショナルリズムを感じます。」

田中氏「自分でするしかない。だって誰もしたことの無い作業だから誰にも聞けないですよね。」

田中氏「五彩もそうですが、日本の文化は体験の中から育まれ、受け継がれています。そうした日本文化は海外からの評判も高い。海外に行けば行くほど日本を誇りたいという気持ちが生まれます。」

海外に行く時には作務衣を着るという田中氏。日本の文化を世に伝えるには、自らが理解しておくことも必要である。田中氏は自ら理解することへの努力を惜しまない。それが仕事や生き方に表れ、その生き方に共感されている方も多いのではないだろうか。

■プロと孤独

松岡氏「たくさんの人を巻き込むことも多く、コラボレートする機会も多い一方、本当のプロは孤独だと思います。マイナスな意味ではありません。プロセスを決め、自分が思い描くゴールに導き、責任を取る。それは孤独なことです。」

田中氏「若いころに、『今は川の下流にいるのだ』と思ったことがあります。そして自分は『上流に上っていこう』と決めました。川の中なので、応援してくれる周りは水には入れない、自分ひとりの力で歩くしかない。そして、今は中流かな？とか中流の上流かな？とか意識しながら歩いてきました。これは死ぬまで上流に向かって歩くのでしょうか。これが結構楽しいです。」

松岡氏「その情景、私もすごく共有出来ます。細い川から大きな川へと広がるのが成功のイメージだけど、それとは逆ですよ。進めば進むほど険しく、流れも急になり水は冷たくなる。しかし誰にもそうしろと言われた訳ではない。自分で決めて淡々と進んでいく。悲観せず、自分を見つめながら歩くことがプロの一つの道なのではないでしょうか。」

■ シンプルな考え方そして造顔マッサージへ

ビジネスには「決断力」や「勘」も重要である。田中氏には鋭い決断力や、自分を信じる思い切りの良さを感じると、松岡氏は語る。

田中氏「昔からあまり深く考えないですね。人生を複雑にしない。なんでもシンプルに考えます。何かことが起きても本人（当事者）に直接聴きます。一番早い解決方法ですからね。また、言葉をたくさん使います。自分を理解していただくために、言葉をきちんと使いますね。そして、出来るか出来ないかを考えます。例えば90%出来ていても、後が出来ないと思えばすぐ止めますね。深く考えすぎず進めていけるものが成功しているように思います。」

松岡氏「現場主義というお話もよく聞くのですが、いきなり現場に抜き打ちで行かれるようですね。スタッフの方々はびっくりされるようですが。（笑）実はこれがすごく重要で、全てを見ること。現場を知ることの積み重ねが、『勘』の鋭さにつながっているのだと思いますね。」

「はじめの目標からぶれないこと」「現場では常に勉強」ご自身から語られるこれらの言葉からも、持ち合わせた直観力だけではなく、培われてきた判断力を感じさせる。シンプルにそしてぶれない目標を大切にすることから、造顔マッサージは生まれた。

田中氏「長丁場の撮影現場では、女優さんもうどうしても疲れが隠せなくなる。照明のあたり方次第ではそれが露呈され、お化粧だけでは隠し切れないのです。そのときに、人間の骨格と筋肉の付き方に気付きました。骨格に直接付いている筋肉を強化すれば、リフトアップも可能だと。それには勿論、いろんな方々に質問したり勉強したりしましたね。全てが完成するまでに16年かかりました。マッサージ自体、今でも日々進歩しているのですよ。」

松岡氏「どこまでやればどういう風に進んでいくとか、初めの頃は全く見えてなかったのではないですか。」

田中氏「私は20代の頃から一日一食、それも習慣じゃなく食べたいときに食べるようにしています。そんな時に宇宙食を知って衝撃を受けましたね。簡易に一瞬で食事が出来る。このときに、『美』も同じように出来ないかと思いました。一瞬できれいになる、そういうことを最終目標にしたいと考えたのです。造顔マッサージを3分としているのもそういうことです。この3分を目標に今までは真っ直ぐ進んできました。これからは更に「一瞬」のために残りの人生かけていきたいですね。」



対談中の田中氏

飽くなき探究心が素晴らしいと松岡氏は語る。また、ご自身がY・METHODに使われているお話や美容に関するお二人の対談が続く。

松岡氏「造顔マッサージを惜しみなく伝えようとしていますよね。技を隠すのではなくオープンにして、とにかくやってみてほしいと。腹をくくるといつか、すごく潔く見えます。」

田中氏「腹くくっていますね。（笑）いつ死んでもいいとも思っていますよ。毎日そうやって生きていますし。生きていくこと自体が趣味ですね。」

松岡氏「今日みなさんに一番感じて欲しいことは、『仕事って素晴らしい』ということ、そして『続けていく』こと。田中さんを是非見てほしいのです。そこから得る喜びは計り知れないから。」

ここから、会場では造顔マッサージのデモンストレーションが始まった。本日参加しているオーディエンスの中から抽選で1人が選ばれ、実際に造顔マッサージの実践を受けることが出来た。田中氏のアドバイス一言一句を聞いている会場の集中力からも、田中氏の人気伝わってくる。



造顔マッサージを指導する田中氏

最後には会場からの質問に答える時間が持たれた。田中氏自身マイクを持って質問一つ一つに丁寧に答えられた。質問の奥底にまで一度たどり着き、一つ一つを鮮明に明らかにしていく、何かに包まれるような、そして優しい微笑を浮かべながらの応答は、参加者すべてに元気を与えたと思えた。